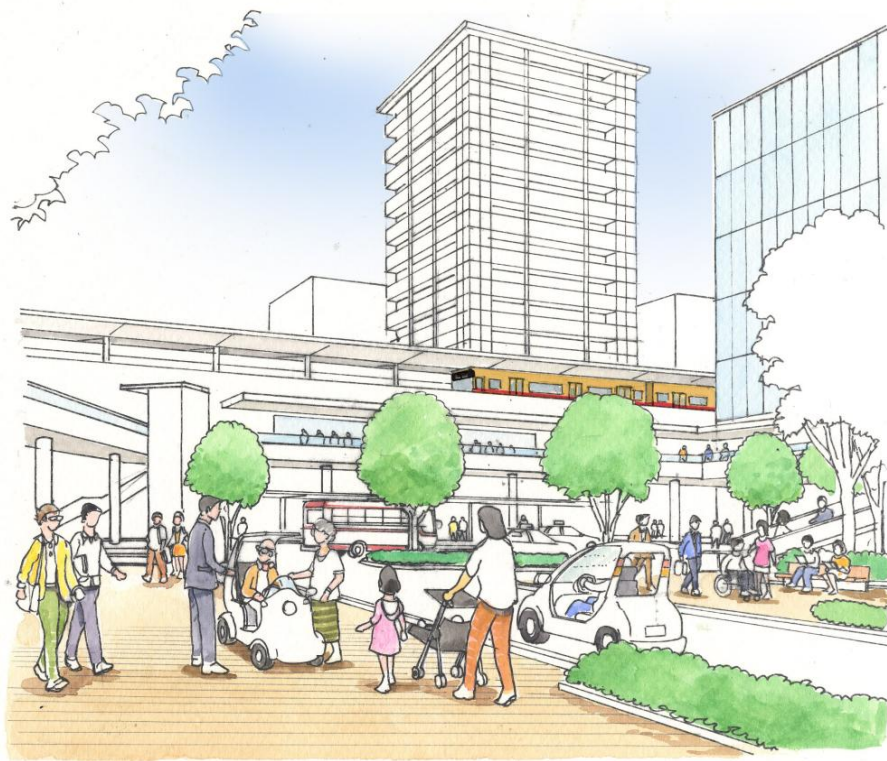


# 枚方市駅周辺再整備ビジョン

～再発進 ひらかた 人が主役のゆとりと賑わいのまちへ～



平成 25 年 3 月

枚 方 市



# ごあいさつ



枚方市は、昭和22年8月1日に府内で12番目の市として発足し、以来65年が経過する中、大阪・京都の中間に位置する京阪沿線の多機能都市として、人口40万人をこえる都市に発展をとげてきました。

現在、本市では多様な特徴を活かした施策を推進する中で「健康医療」「教育文化」を都市ブランドとして確立し、枚方を「住みたい・住み続けたいまち」から「市民が誇れるまち」へと飛躍させることをめざしています。

人口減少時代を迎え、少子高齢化の進展など社会環境が変化し市民ニーズが多様化する中、将来にわたって活力を維持し、選ばれるまちとして成長していくためには、都市が持つ魅力を一層高めていかななくてはなりません。

本市の中心市街地として発展してきた枚方市駅周辺地域も例外ではなく、高度経済成長やモータリゼーションといった社会背景のもとで備えられてきた都市基盤等の様々な特性を活かした再整備に取り組み、魅力あふれる中心市街地として新たな賑わいを創出していきたいと考えています。

そうしたことからこの度、まちづくりの専門家をはじめ事業者や地元の方々など様々なご意見をお聴きし、市駅周辺地域におけるまちの将来像を示した『枚方市駅周辺再整備ビジョン』を策定しました。

今後はこのビジョンの趣旨を踏まえ、関連事業・施策の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

結びに、ビジョン策定にご尽力いただいた意見聴取会並びにまちづくり懇談会の皆様をはじめ、貴重なご意見を頂戴した関係団体、市民の皆様に厚く感謝を申し上げます。

枚方市駅周辺再整備ビジョンの実現に向けて、今後もお理解ご協力をよろしくお願いいたします。

平成25年3月

枚方市長 竹内 脩

<b>第1章：枚方市駅周辺再整備ビジョン策定にあたって</b>	<b>1</b>
(1) 枚方市駅周辺地域の再整備の必要性	1
(2) ビジョン策定の目的	1
(3) ビジョンの位置づけ	2
(4) 対象区域	5
(5) 枚方市駅周辺の歩み	6
(6) ビジョン策定にあたっての推進体制	7
<b>第2章：現状と課題</b>	<b>8</b>
(1) 広域的な拠点	8
(2) 社会環境や市民ニーズ	10
(3) 交通基盤	13
(4) 地域資源と文化芸術活動	15
<b>第3章：将来像</b>	<b>17</b>
(1) 将来像の考え方	17
(2) まちの将来像 ～基本コンセプト～	18
<b>第4章：まちづくりの方向性</b>	<b>19</b>
(1) 広域的な拠点としての機能の更新・充実	19
(2) 社会環境や市民ニーズに対応した多様な都市機能の集積・強化	20
(3) 人々の活動や交流を促進する交通基盤のネットワーク展開	21
(4) 地域資源と文化芸術活動を活かした枚方らしさの創出	22
<b>第5章：まちづくりの取り組み</b>	<b>23</b>
(1) 拠点形成と連鎖型によるまちづくり	23
(2) ゾーニングの設定	25
(3) 交通環境の改善	26
(4) 快適な空間の創出と環境負荷の軽減	28
(5) 安全・安心への導き	29
(6) 地域資源や地域活動の活用	30
(7) ビジョンのイメージ	31
(8) 主な取り組みスケジュール	32
<b>第6章：ビジョンの推進</b>	<b>33</b>
(1) ビジョン実現に向けた第一歩	33
(2) ビジョン実現に向けたさらなる展開	33
<b>資料編</b>	<b>資-1</b>
1 基礎資料編	資-1
2 アンケート編	資-25
3 用語集	資-32
4 ビジョン策定経過	資-37

# 第1章：枚方市駅周辺再整備ビジョン策定にあたって

第1章では、枚方市駅周辺再整備ビジョン策定にあたって再整備の必要性等の概要について示すものです。

## (1) 枚方市駅周辺地域の再整備の必要性

枚方市駅周辺地域は、昭和30年代の大阪府住宅供給公社枚方団地や市役所本館の建設からはじまり、市街地再開発事業<sup>\*</sup>による駅前整備等が行われ、平成7年の京阪本線連続立体交差事業<sup>\*</sup>の完成により、現在の都市基盤<sup>\*</sup>が形成されました。

この地域は、長い年月をかけ築き上げられてきた行政サービス機能、商業・業務機能等が集積する本市の中心市街地であり、鉄道や路線バスの乗降客数の多さからも府内有数の交通結節点として本市の中核機能を担っています。

また、この地域には淀川や枚方宿<sup>\*</sup>等の自然歴史資源や、大学の立地、集積する文化・医療施設、活発な市民活動等、魅力ある地域の資源が多く存在しています。

しかし、これらの都市機能や地域資源が、必ずしもまちの賑わいや商業の活性化に活かされているとは言えず、駅周辺においては複数の大型商業施設<sup>\*</sup>が閉店したことも一因で、商業施設全体の販売額も減少しています。

また、通過交通による駅前広場の交通混雑、周辺施設の老朽化等といった様々な問題も生じています。さらに、少子高齢化等の社会環境の変化や多様化する市民ニーズにも対応していく必要があります。

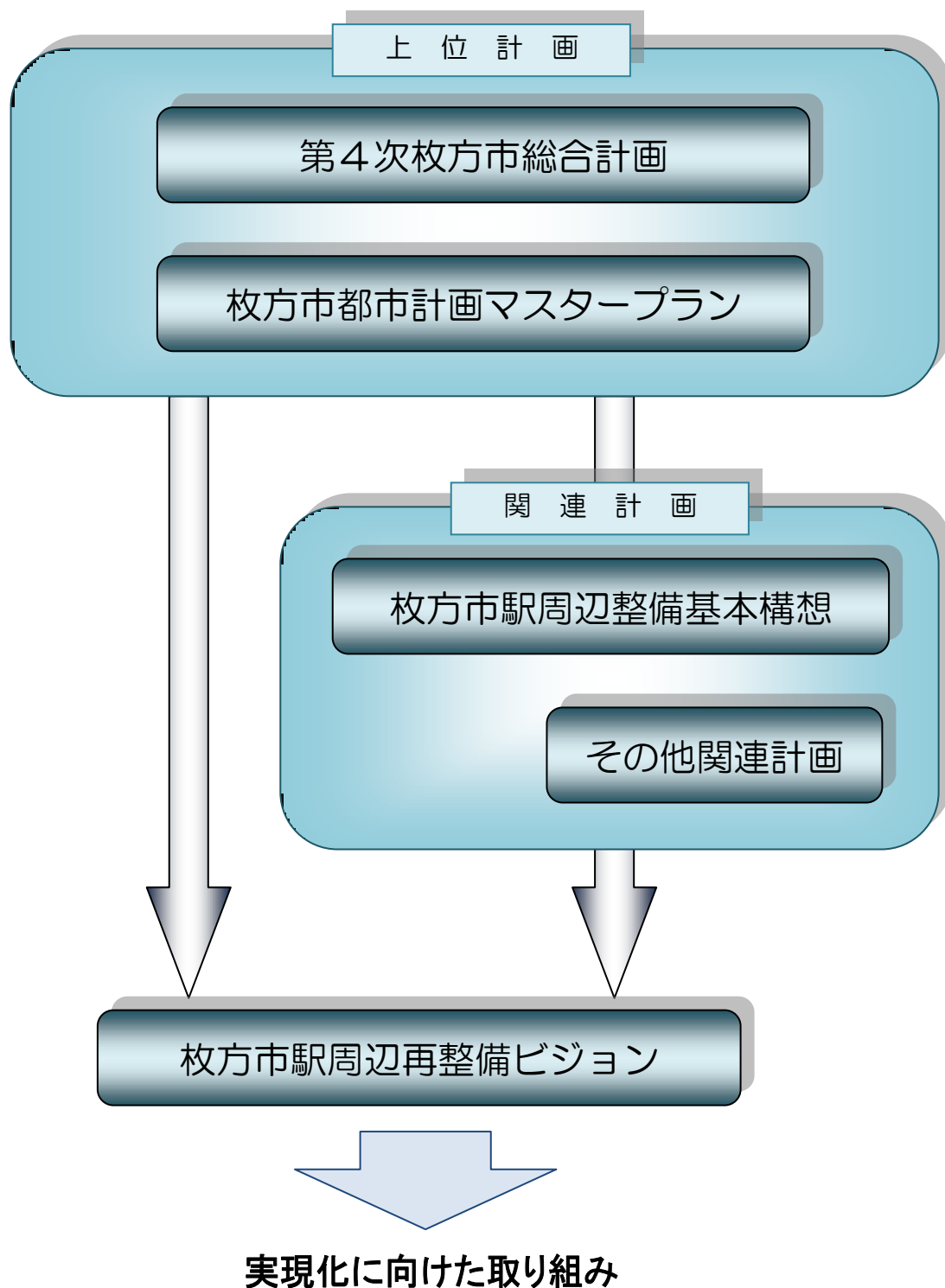
これらの様々な課題やこれからの時代に対応したまちづくりを実現するために、この地域の特性を活かしつつ、本市の中心市街地として、魅力あふれる賑わいのあるまちの構築をめざす再整備が必要です。

## (2) ビジョン策定の目的

再整備にあたっては、建物や道路、公園を個別に整備するのではなく、地域全体を総合的にとらえ、地域に関わる人々が魅力あふれる賑わいのあるまちの構築をめざし、実現化を図ることを目的に、このビジョンを策定するものです。

### (3) ビジョンの位置づけ

ビジョンは『第4次枚方市総合計画※』、『枚方市都市計画マスタープラン※』を上位計画とし、『枚方市駅周辺整備基本構想※』等の関連計画の趣旨を踏まえ策定します。



上位計画及び関連計画においては、枚方市駅周辺地域について以下のとおり表現しています。

### ○第4次枚方市総合計画（平成13年策定、第2期基本計画：平成21年策定）

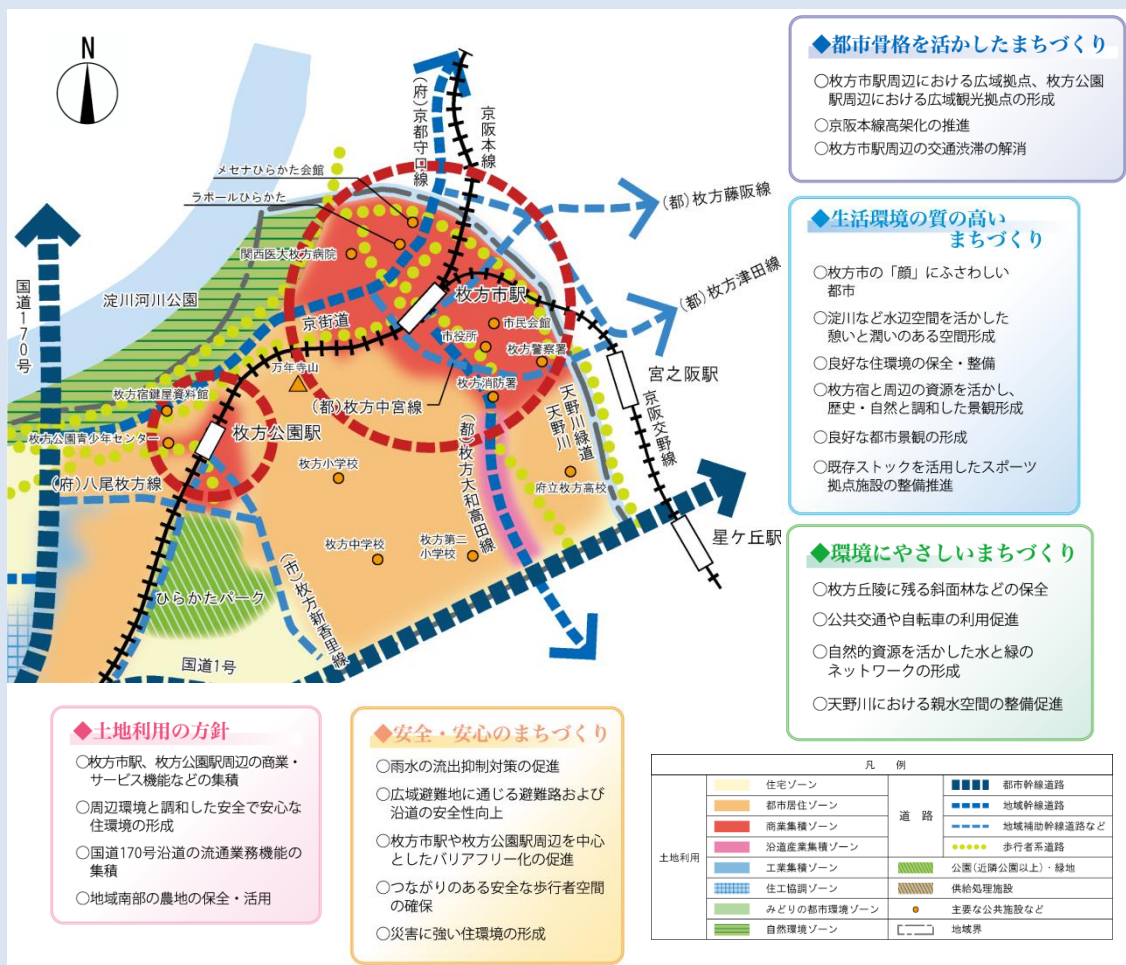
【施策目標】～人が集い、魅力と活力あふれる中心市街地をつくる～

- ・魅力あふれる中心市街地の形成に向け、枚方市駅周辺の自然や歴史文化遺産、商業施設を一体的にとらえた枚方市駅周辺の再整備に向けた取り組みを進めます。
- ・枚方市駅周辺において、歴史・文化を生かしたイベントの開催や音楽などの発表の機会を設けるなど、市民による賑わいづくりを支援します。
- ・芸術・文化の鑑賞機会を充実させるとともに、自主的な活動を支援するため、総合文化施設の整備をめざします。

### ○枚方市都市計画マスタープラン（平成23年策定）

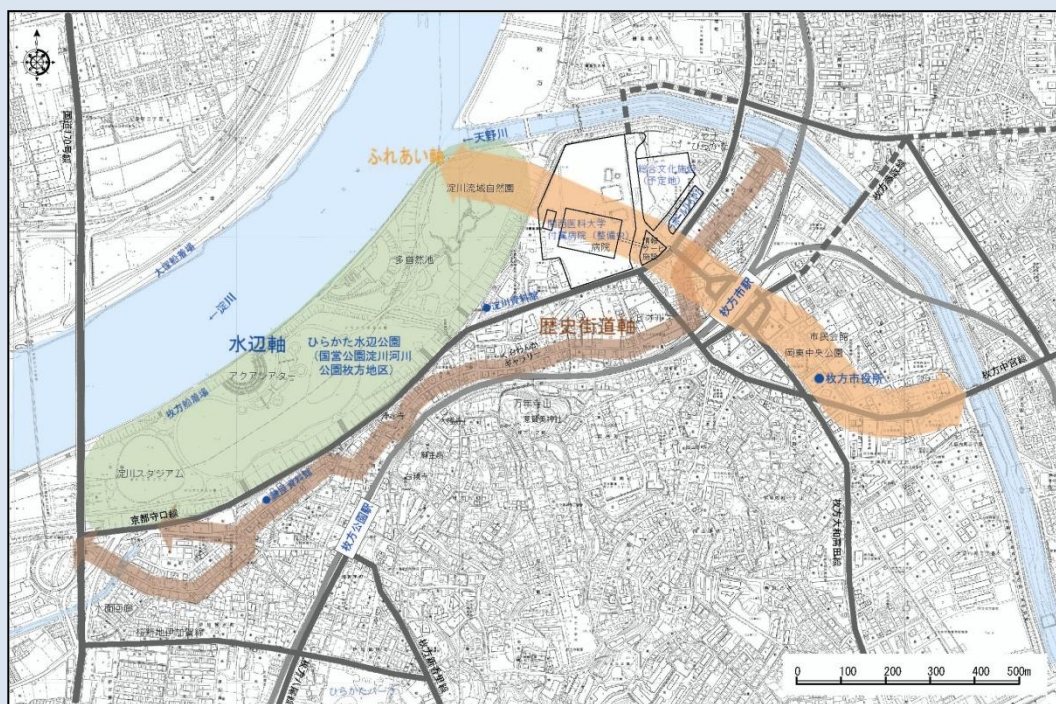
【南西部地域の将来像】～淀川の悠久の流れと歴史文化が織りなす魅力にあふれ広く人が集まる賑わいのまち～

恵まれた歴史・自然環境を活用するとともに、文化・福祉機能を付加して世代間の交流を促進し、周辺都市を含めた広域都市圏の拠点にふさわしい「人が集まる広域交流拠点」の形成を図ります。



### ○枚方市駅周辺整備基本構想（平成 16 年策定）

『歴史と文化が薫る、川に開かれたまち』をめざし、枚方の新しい都市格（都市の個性、品格）を形成し、40 万人都市の中心としての賑わい、歴史や文化が感じられる回遊性※を創出します。また、『ふれあい軸』『歴史街道軸』『水辺軸』という 3 つの軸を設定し、これらの軸の形成と連携をもとにメリハリのあるまちづくりを進めていきます。



まちづくりのための 3 つの軸図



## (4) 対象区域

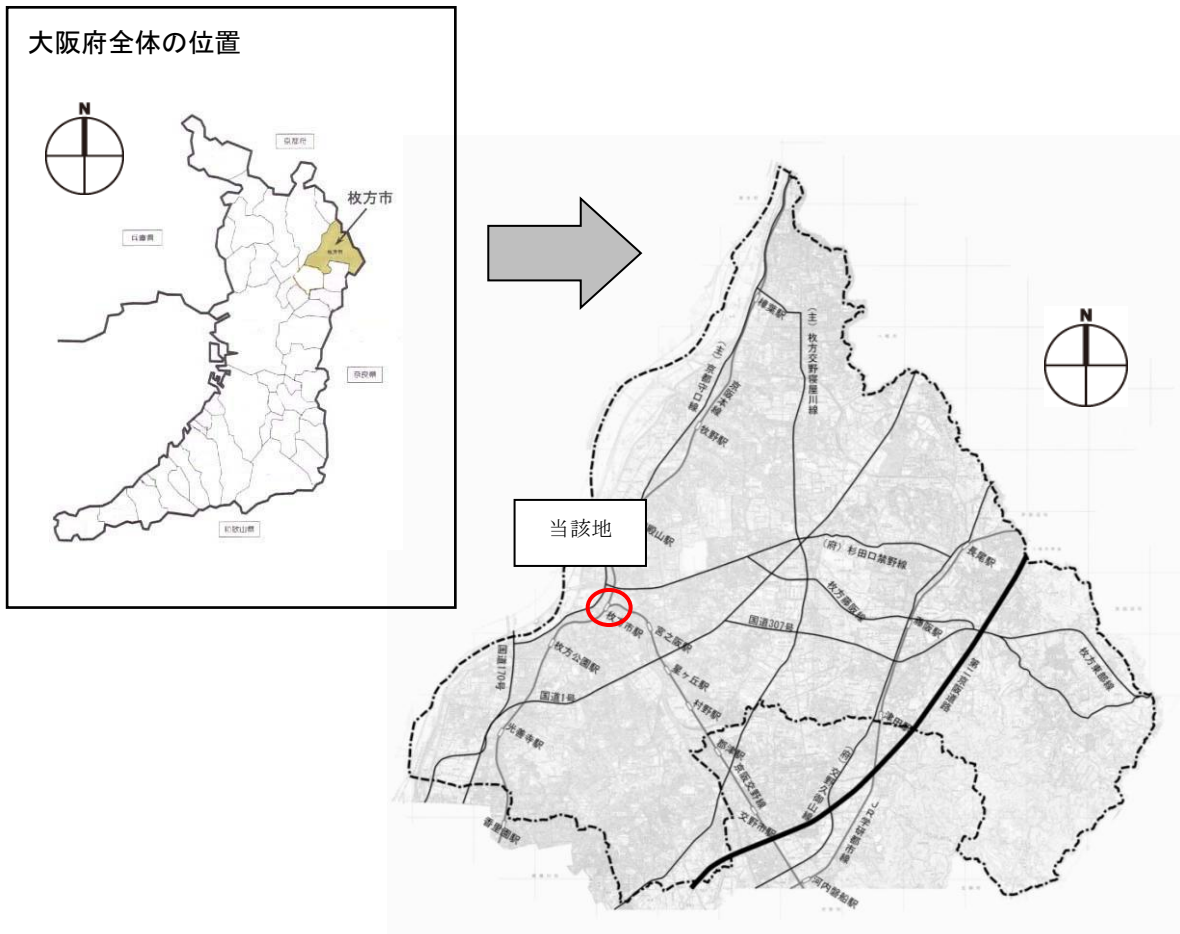
### 1) 位置

本市は大阪府の北東部に位置し、北は京都府八幡市、東は京都府京田辺市、奈良県生駒市、南は寝屋川市、交野市、西は淀川を挟んで高槻市、島本町と隣接しています。

また、地形は、淀川沿いに平野部が広がっており、東部は、生駒山系からなる丘陵・山地をなし、南部は、海拔 20～50m の丘陵地により構成されています。

市内には、京阪本線、京阪交野線、JR 学研都市線の 3 つの鉄道路線があります。

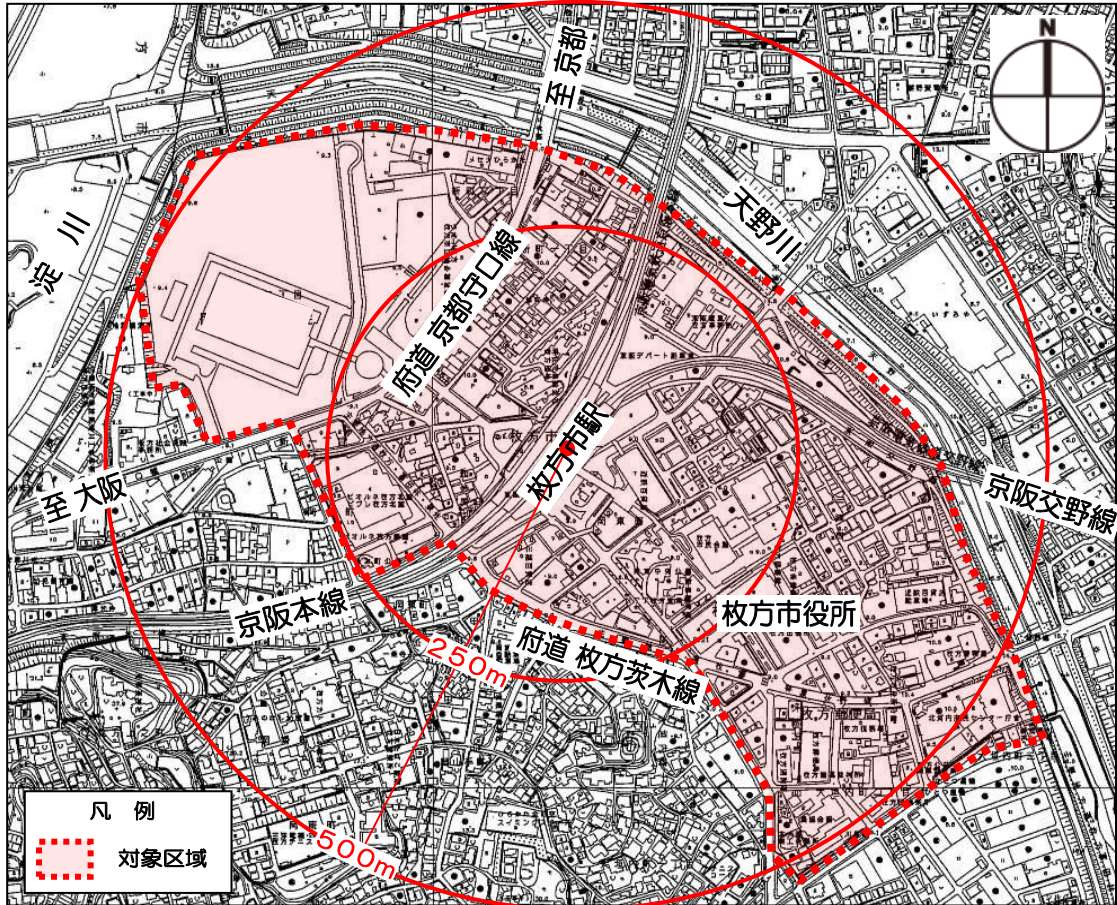
主な幹線道路は、南北方向に国道 1 号、国道 170 号、府道京都守口線、府道枚方交野寝屋川線、府道交野久御山線があり、平成 22 年の第二京阪道路の全線開通により、全国の高速道路と直結することとなりました。また、東西方向には、国道 307 号、府道杉田口禁野線、市道枚方藤阪線があります。



## 2) 対象区域

ビジョンの対象区域は、枚方市駅周辺整備基本構想における『ふれあい軸』を中心とし、地区計画\*が定められている新町2丁目地区、並びに官公庁団地、枚方宿地区の一部を含み、地域資源\*である淀川、天野川及び府道枚方茨木線等の道路で分節された下記区域約40ha\*の範囲とします。

(区域界に隣接する範囲は、区域内との整合を図りながら検討します。)



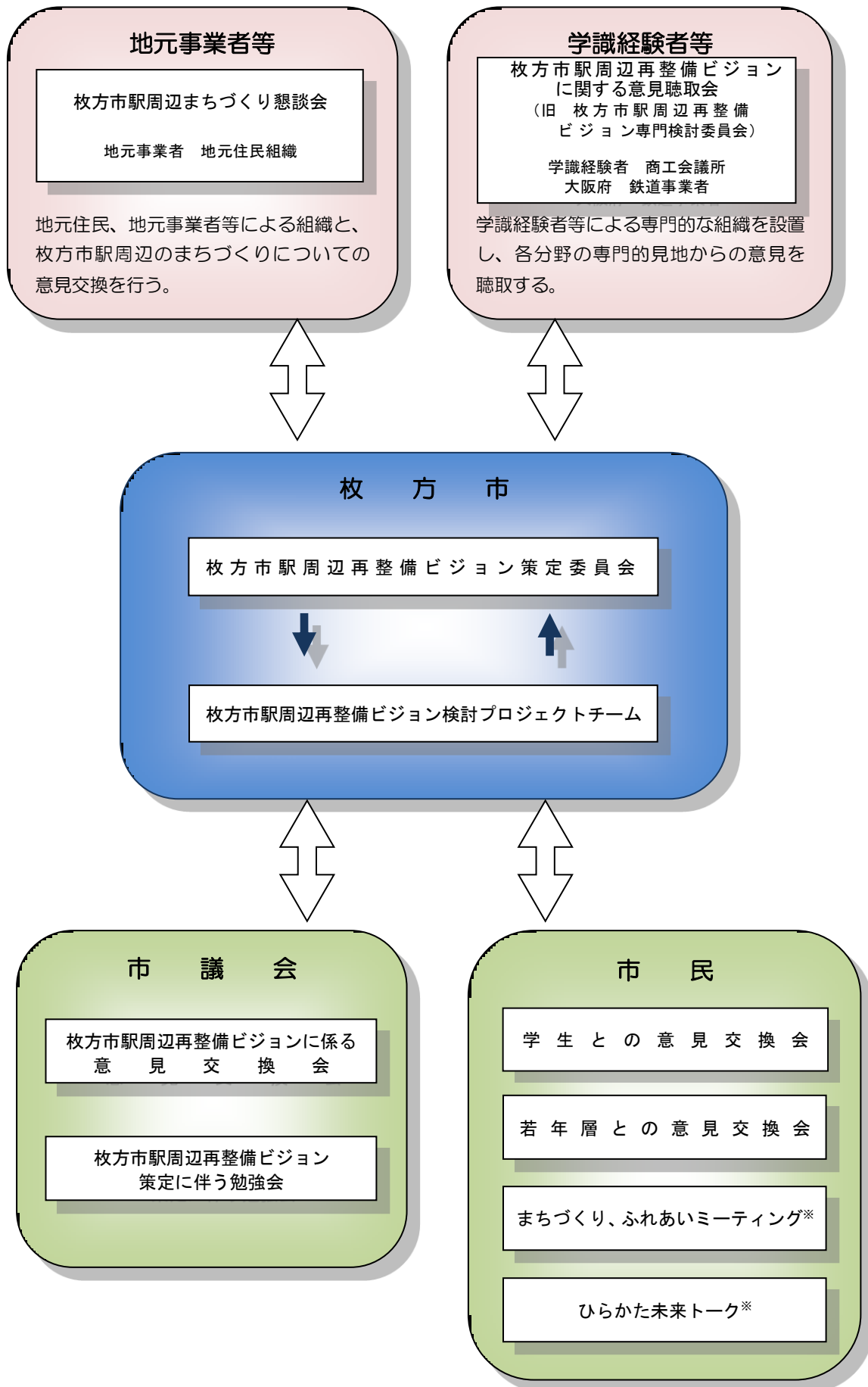
## (5) 枚方市駅周辺の歩み

枚方市駅周辺地域は、これまで枚方市の中心地域として様々なまちづくりに関連した事業が実施され、まちが形成されてきました。

主なまちづくりに関連した事業

事業実施期間	事業名称	施行者	備考
S30年度竣工	大阪府住宅供給公社枚方団地	大阪府	
S46年度～S50年度	枚方市駅前市街地再開発事業	枚方市	
S44年度～H6年度	中部土地区画整理事業*	枚方市	官公庁団地
S58年度～H2年度	枚方岡本町地区第一種市街地再開発事業	組合	
S50年度～H6年度	京阪電気鉄道京阪本線交野線連続立体交差事業	大阪府・枚方市・京阪電気鉄道株式会社	
H12年度地区計画	新町二丁目地区 地区計画		

## (6) ビジョン策定にあたっての推進体制



## 第2章：現状と課題

ここでは、平成 22 年度に実施した枚方市駅周辺再整備ビジョンに係る基礎調査（地元住民・事業者及び市民へのアンケート調査を含む）の結果や統計書等各種資料を基に、枚方市駅周辺地域の実態を把握し、課題解決に向けた検討ができるように、現状と課題を項目別にまとめます。

### (1) 広域的な拠点

枚方市駅周辺は、北河内地区\*全域を所管する北河内府民センター\*等の公共施設が集積しており、行政機能の中心です。

民間施設は、昭和 40 年代から建設が進み商業施設や事業所が集積されています。しかしながら、老朽化した建物が多く、低未利用地\*も存在します。このような状況において、まち全体の更新が課題です。

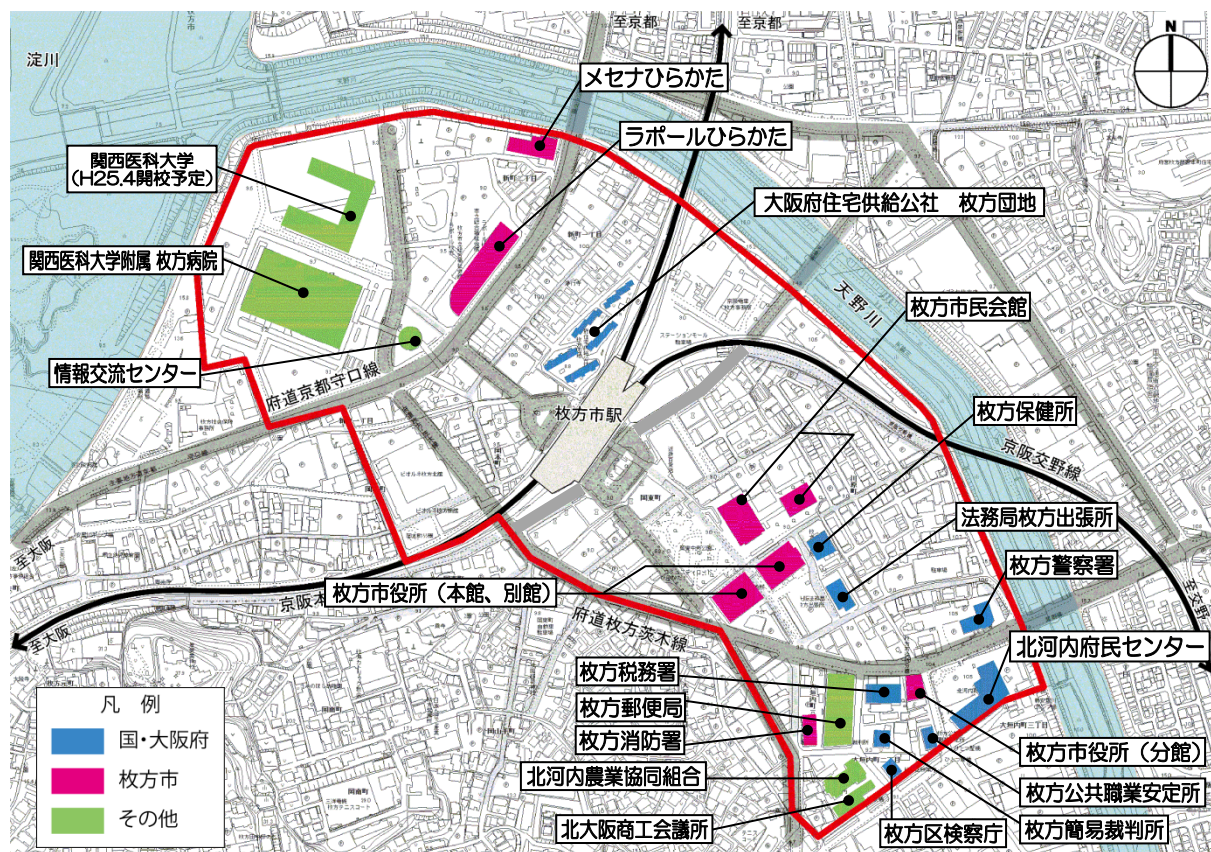
#### <現状>

- ・行政、文化、商業、医療、福祉等の機能の集積
- ・公共施設や地域内のビルの老朽化
- ・低未利用地の存在

#### <課題>

- ・施設の更新、まちのリニューアルによる機能の強化
- ・低未利用地の有効活用

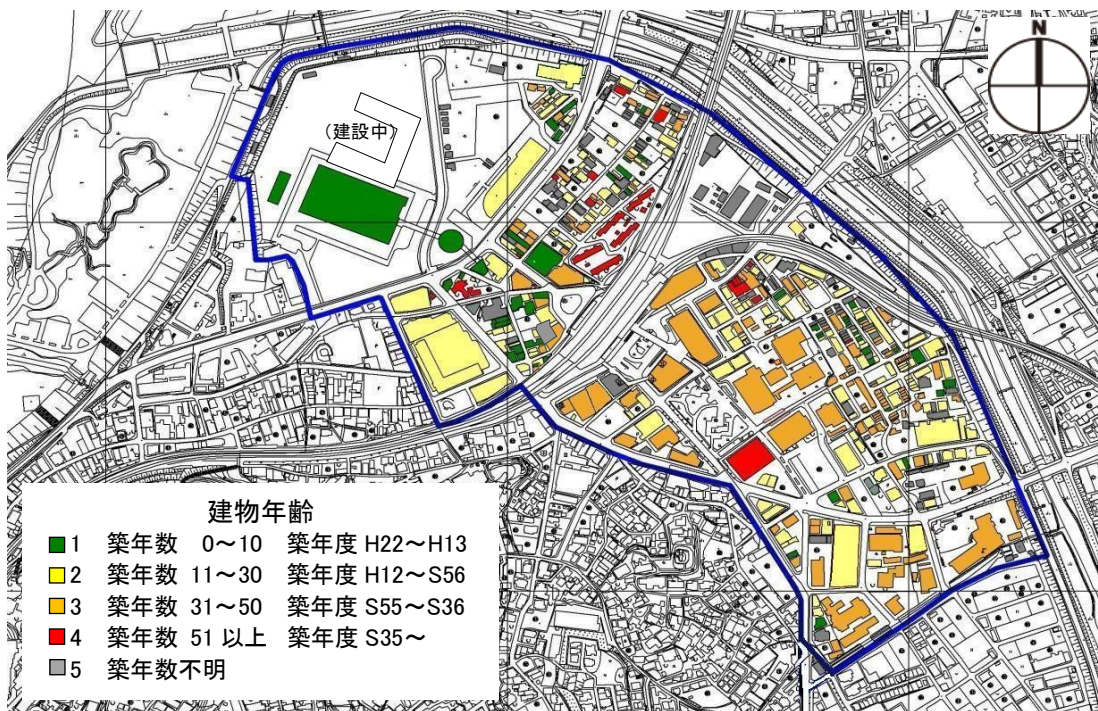
#### 1) 公共・公益施設の分布状況



2) 公共施設の所管区域

	枚方市	交野市	寝屋川市	大東市	四條畷市	門真市	守口市
北河内府民センター	○	○	○	○	○	○	○
枚方土木事務所	○	○	○	○	○	○	○
枚方公共職業安定所 (ハローワーク枚方)	○	○	○	門真公共職業安定所			
枚方保健所	○	四條畷保健所	寝屋川保健所	大東保健所	四條畷保健所	門真保健所	守口保健所
枚方警察署	枚方警察署 交野警察署	交野警察署	寝屋川警察署	四條畷警察署		門真警察署	守口警察署
枚方税務署	○	○	○	門真税務署			
北大阪商工会議所	○	○	○	大東商工会議所	四條畷商工会議所	守口・門真商工会議所	
枚方簡易裁判所 検察庁	○	○	○	○	○	○	○
法務局枚方出張所	○	○	○	東大阪支局		守口出張所	

3) 枚方市駅周辺建物年齢



当該地域全体では、築 11～30 年の建物が最も多い。161 戸  
(建物全体の約 30%)

新耐震基準\*以前の建物 築 31 年以上 316 戸  
(建物全体の約 59%)

(枚方市駅周辺再整備ビジョン策定に係る基礎調査業務 (平成 22 年度) より)

## (2) 社会環境や市民ニーズ

少子高齢化、長引く経済情勢の低迷等、社会環境の変化も著しいものがあり、市民ニーズが多様化しています。また、この地域では大型商業施設の集積による賑わいが、閉店により衰退している状況です。そのため、社会環境や市民ニーズに対応した新たな賑わいの創出が課題です。

### <現状>

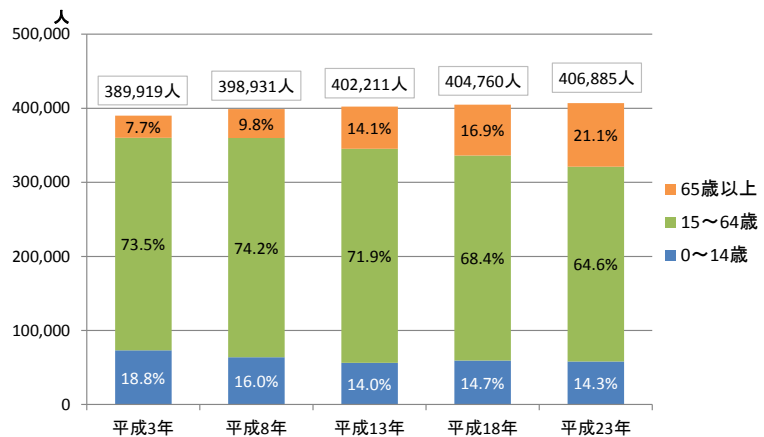
- ・ 駅周辺の集客力の低下による大型商業施設の閉店、売上の減少
- ・ 地域の人口減少と少子高齢化の進行
- ・ 文化施設、娯楽施設、景観及び防犯等、市民ニーズの多様化

### <課題>

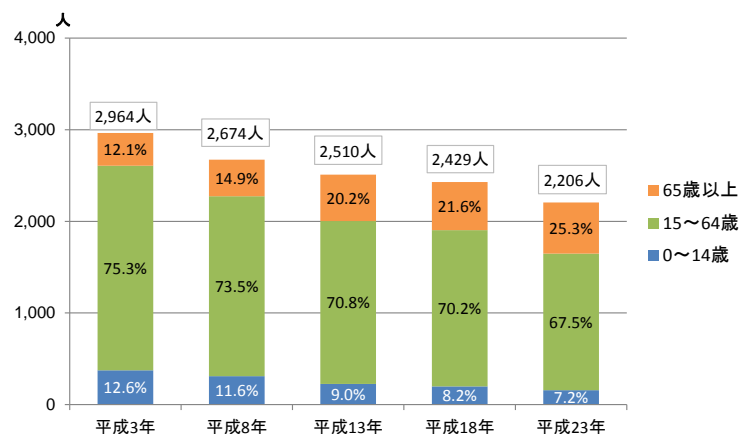
- ・ 図書館、ホール、美術ギャラリー等の文化施設、映画館等の娯楽施設といった「時間消費型施設」や、駅前景観への対応
- ・ 居住人口の増加
- ・ 活性化による集客力の回復
- ・ 地域の緑化推進

### 1) 居住人口の状況

#### 【枚方市全域】



#### 【枚方市駅周辺地域内】

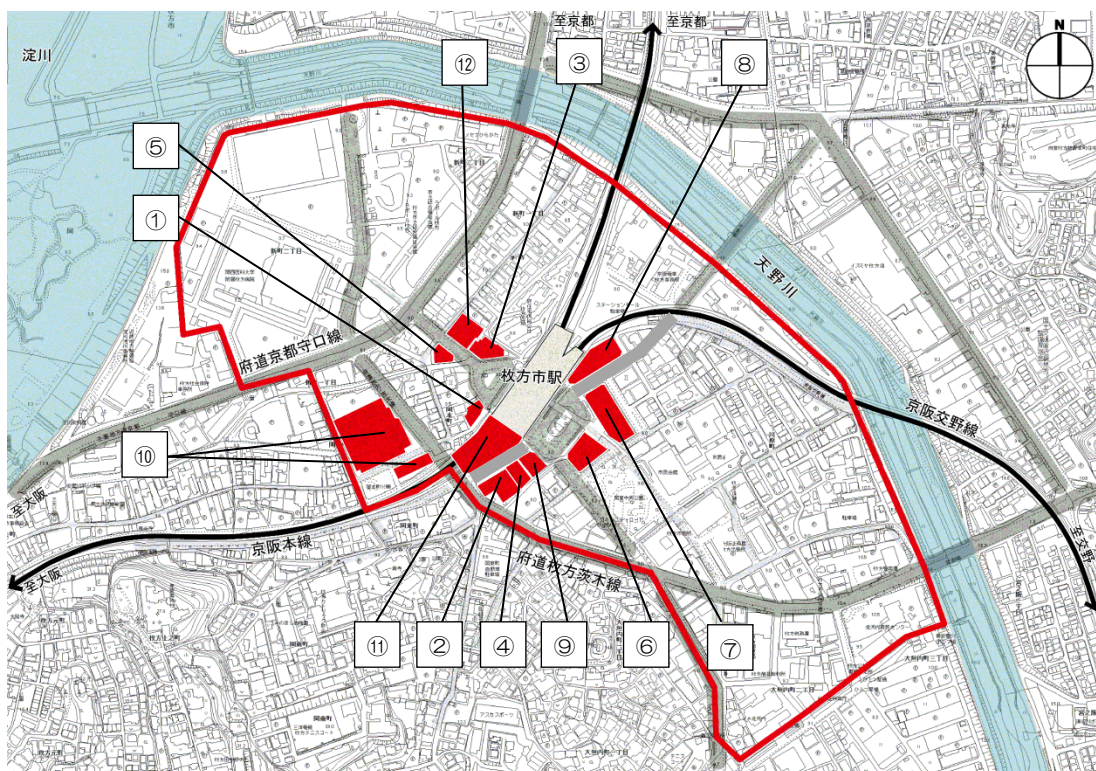


(各年10月1日現在、枚方市統計書より。人口の合計は外国人を除き、年齢不詳人数含む。)

本市の居住人口は、若干ながら増加傾向にありますが、枚方市駅周辺地域内における居住人口は減少傾向です。

また、年齢構成比率から、枚方市全域、枚方市駅周辺地域内ともに少子高齢化が進んでいることがわかりますが、特に、枚方市駅周辺地域内ではその傾向が顕著に表れています。

## 2) 主な商業・業務施設の状況



名 称	建設年次	主要用途	備 考
①枚方デパートビル	S40	コンビニ、レンタルビデオ店、飲食店他	枚方駅前デパート
②枚方中央ビル	S43	食料品店、書店、雑貨店他	三越枚方店
③枚方テイクツービル	S44	雑貨店、ドラッグストア、飲食店他	長崎屋枚方店
④枚方三和ビル	S47	銀行他	
⑤ジャンボ枚方ビル	S48	カラオケ店、風俗店他	
⑥ひらかたサンブラザ1号館	S50	銀行、医療、事業所他	
⑦ひらかたサンブラザ2号館	S50	雑貨店、化粧品店他	近鉄百貨店枚方店
⑧ひらかたサンブラザ3号館	S50	飲食店、事業所、パチンコ店、行政機関他	
⑨枚方近畿ビル	S51	銀行、飲食店他	
⑩ピオルネ枚方	H2	ドラッグストア、飲食店、食料品店 雑貨店他	
⑪京阪枚方ステーションモール	H6	百貨店、飲食店、行政機関他	
⑫枚方テイクスリービル	H17	飲食店他	



岡本町にあるピオルネ  
イオン、ドラッグストア、書店、衣料雑貨等の専門店  
が入店している。  
枚方岡本町地区第一種市街地再開発事業により建設。



左：パチンコ店、銀行等の中小ビルが建ち並ぶ。  
右：テイクツービル 飲食店を中心に雑貨、ドラッグ  
ストア等が入店している。  
長崎屋が入店していたビル。



左：枚方近畿ビル、枚方三和ビル、枚方中央ビル  
飲食店、銀行、書店等が入店している。  
枚方中央ビルは三越が入店していたビル。  
右：京阪本線枚方市駅構内には京阪百貨店、京阪ザ・  
ストア等が入店している。



左：ひらかたサンプラザ3号館  
飲食店を中心にパチンコ店、行政施設が入店して  
いる。  
右：ひらかたサンプラザ2号館  
化粧品店、雑貨店が入店。近鉄百貨店が入店して  
いたビル。  
両ビルとも枚方市駅前市街地再開発事業により建  
設されたビル。

- ・大型商業施設の閉店

平成 13 年 長崎屋枚方店の閉店

平成 17 年 三越枚方店の閉店

平成 24 年 近鉄百貨店枚方店の閉店

- ・商業集積地区※（枚方市駅周辺地域）における商店数

208 店（平成 9 年）⇒192 店（平成 19 年） 約 8%減

- ・商業集積地区（枚方市駅周辺地域）における年間販売額

約 677 億円（平成 9 年）⇒約 403 億円（平成 19 年） 約 40%減

- ・商業集積地区（枚方市駅周辺地域）における売場面積

55,323 m<sup>2</sup>（平成 9 年）⇒46,750 m<sup>2</sup>（平成 19 年） 約 15%減

（各年 6 月 1 日現在、商業統計※（経済産業省）より）



### 3) 市民等のアンケート調査結果

- ・満足度が比較的高いもの  
医療や福祉施設、公共施設、商業施設
- ・まちづくりに必要な環境整備及び不満足なもの  
駅前広場の充実、景観整備、まちの安全や防災
- ・まちづくりに必要な施設  
娯楽施設、文化施設、空き店舗の活用や既存店舗のリニューアル

(枚方市駅周辺再整備ビジョン策定に係る基礎調査業務（平成22年度）より）

## (3) 交通基盤

枚方市駅は、京阪沿線屈指の乗降客数を有し、バス路線の充実等、広域的な交通結節点機能をもった駅です。しかし、府道京都守口線の渋滞の抜け道として駅中心部を通過する車両が多く見られることから、通過車両の抑制等、駅前広場交通の円滑化や広域道路網を踏まえた対策等、交通環境の改善が課題です。

#### <現状>

- ・鉄道乗降客数約 10 万人/日の特急停車駅
- ・バス乗降客数約 4 万人/日、48 路線、便数約 1,000 本
- ・府道京都守口線の交通混雑

#### <課題>

- ・駅前広場における交通動線の円滑化、バス便やタクシー待機の改善、通過車両の抑制
- ・安全・安心な歩行者空間と自転車動線の確保
- ・広域道路網を踏まえた対策
- ・乗り換え利便性の向上



枚方市駅南口駅前広場  
路線バス、タクシーで混雑している状況。



枚方市駅北口駅前広場  
路線バスで混雑している状況。



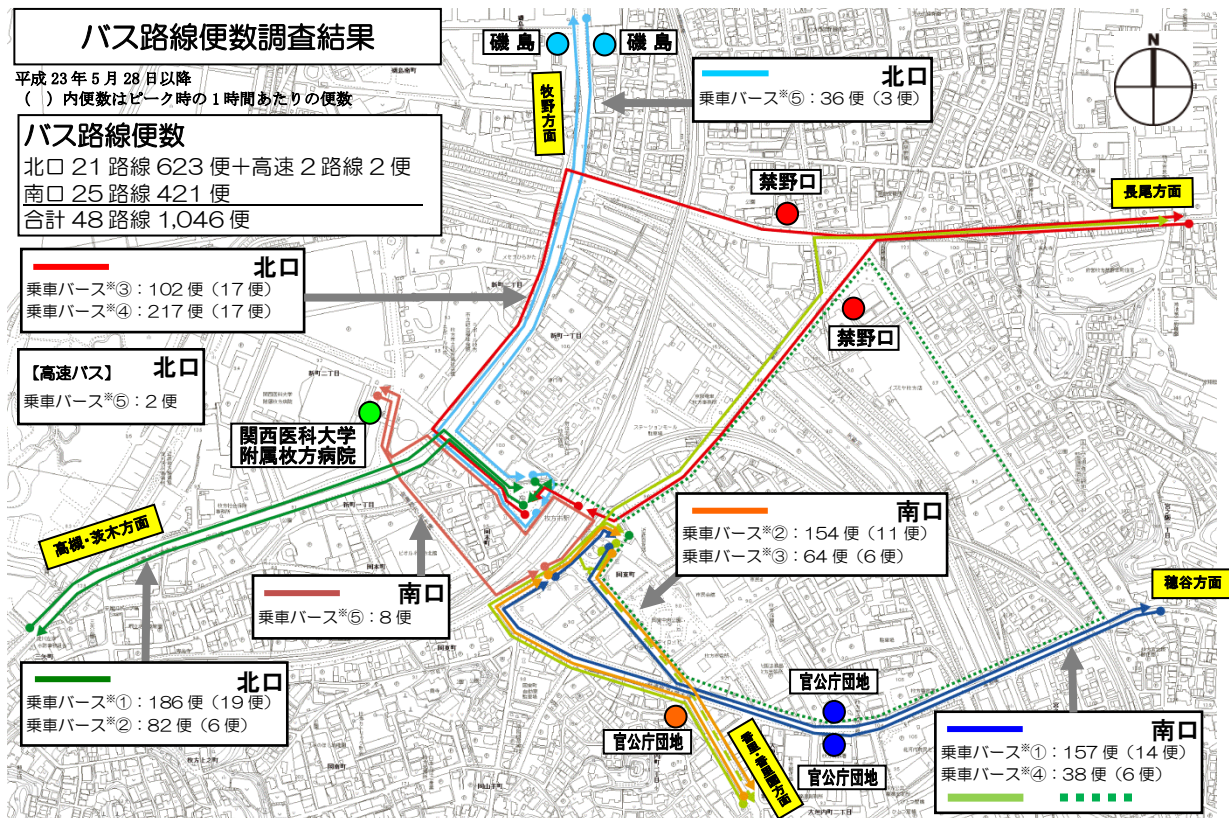
枚方市駅北口駅前広場  
路線バスへの乗降客、歩行者、路線バス、タクシー、  
一般車両で混雑している状況。



枚方市駅高架下  
バスの乗降客で混雑している状況。



府道京都守口線の渋滞状況



#### 1) 枚方市駅及び駅前広場の利用状況

- ・鉄道利用状況

86,647 人／日（平成 14 年）⇒98,919 人／日（平成 22 年）14%増

（資料：京阪電気鉄道株式会社より）

- ・バス利用状況

35,933 人／日（平成 14 年）⇒40,342 人／日（平成 22 年）12%増

48 路線、1,046 便／日

（資料：京阪バス株式会社より）

- ・駅前広場へ流入車両交通量（7:00～19:00 の台数）

南口駅前広場へ流入量約 8,000 台

（うち南口から北口への通過交通約 2,000 台）

（枚方市駅周辺再整備ビジョン策定に係る基礎調査業務（平成 22 年度）より）

- ・タクシー待機状況（7:00～19:00 の平均台数）

南口駅前広場 35 台、北口駅前広場 7 台

（枚方市駅周辺再整備ビジョン策定に係る基礎調査業務（平成 22 年度）より）

### （4）地域資源と文化芸術活動

枚方市駅周辺地域は、淀川、天野川等の自然資源に囲まれ、さらには枚方宿のまちなみ等、歴史資源も多く、また、枚方市内には医学や歯学、薬学、情報科学、語学、経営学といった多様な専門分野の 6 つの大学があり、それぞれの学生が枚方市駅を多く利用しており、賑わい、活性化につながる地域資源としてのポテンシャルは非常に高いものがあります。

さらには、市民会館の稼働率が高いことや、岡東中央公園や市民会館前広場を利用した活動が多く見られることなど文化芸術活動や市民活動が活発です。

これらの地域資源や活発な文化芸術活動を枚方市駅周辺の賑わいにどのようにつなげていくかが課題です。

#### <現状>

- ・淀川や天野川の自然資源、枚方宿のまちなみや鍵屋等の歴史資源の存在
- ・市民会館等を利用した市民の活発な各種文化芸術活動
- ・「枚方宿地区まちづくり協議会」等の活発な活動
- ・地域内の関西医科大学を含む 6 大学の立地

#### <課題>

- ・地域資源を活用した都市の魅力・枚方らしさの創出と情報発信
- ・市民の文化芸術活動や、大学のあるまちを感じられる地域への転換
- ・地域の活性化への寄与

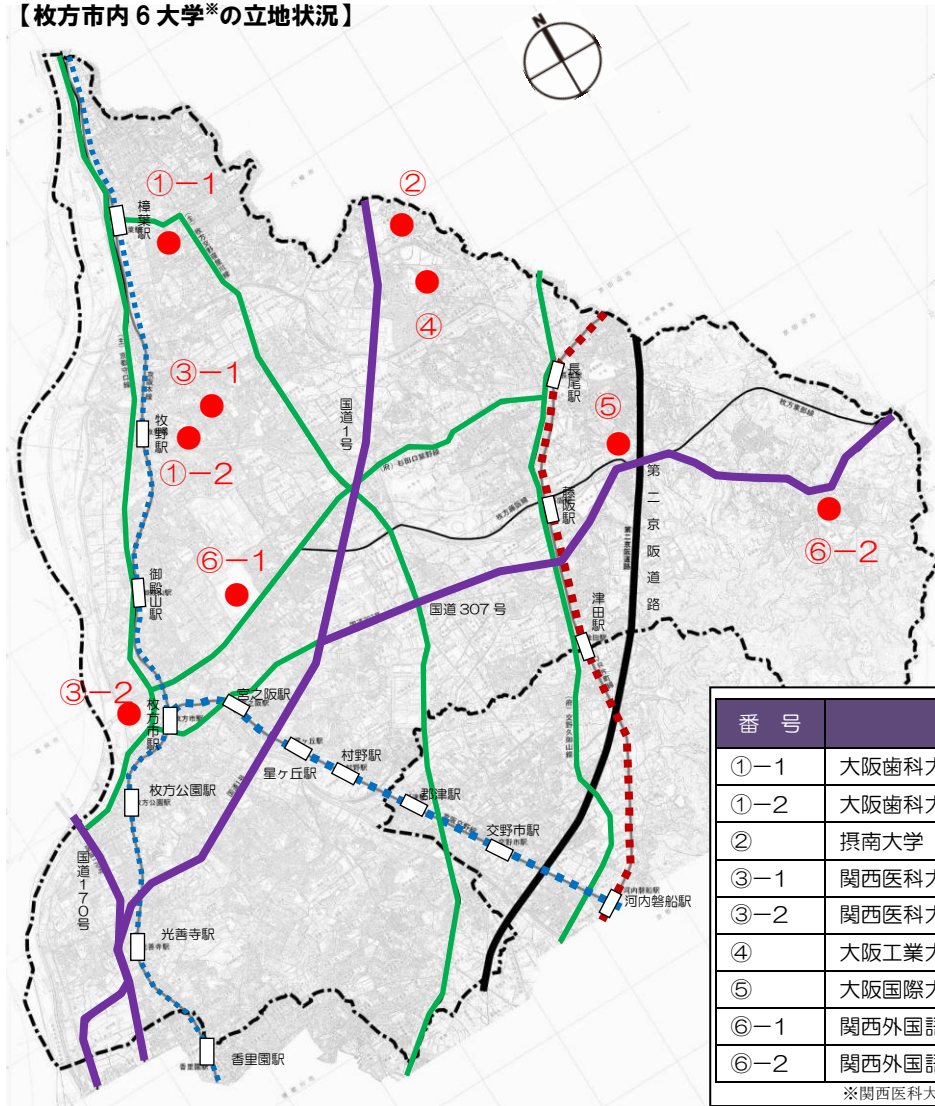
【周辺地域資源状況】



【岡東中央公園】



【枚方市内6大学\*の立地状況】



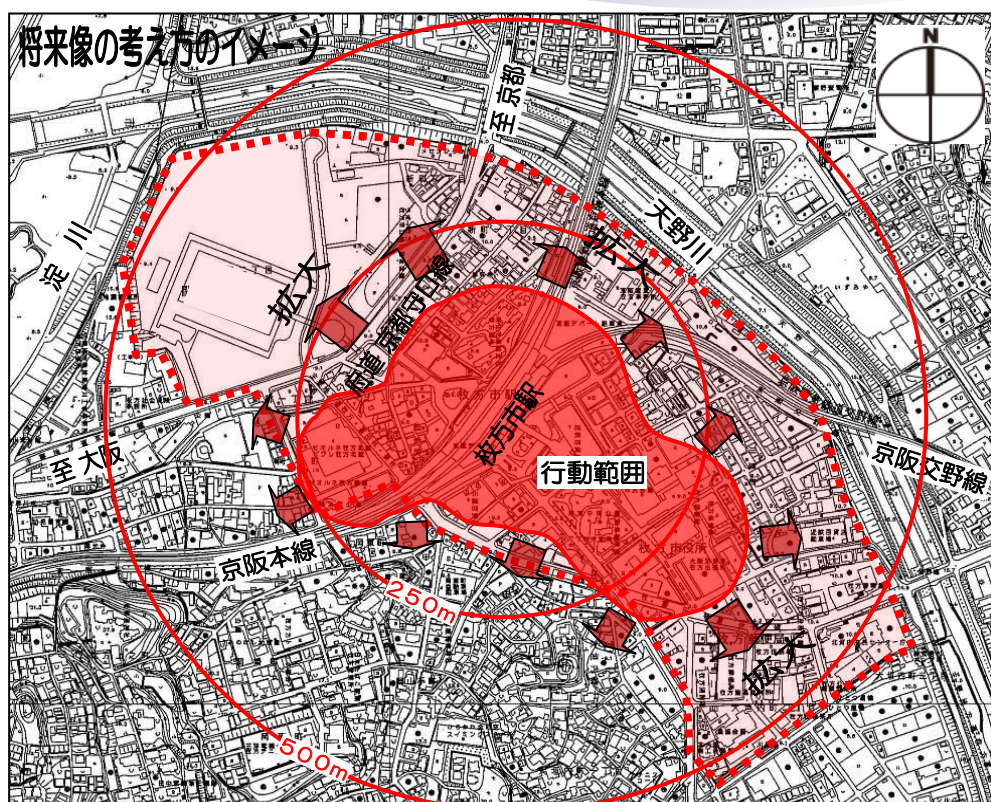
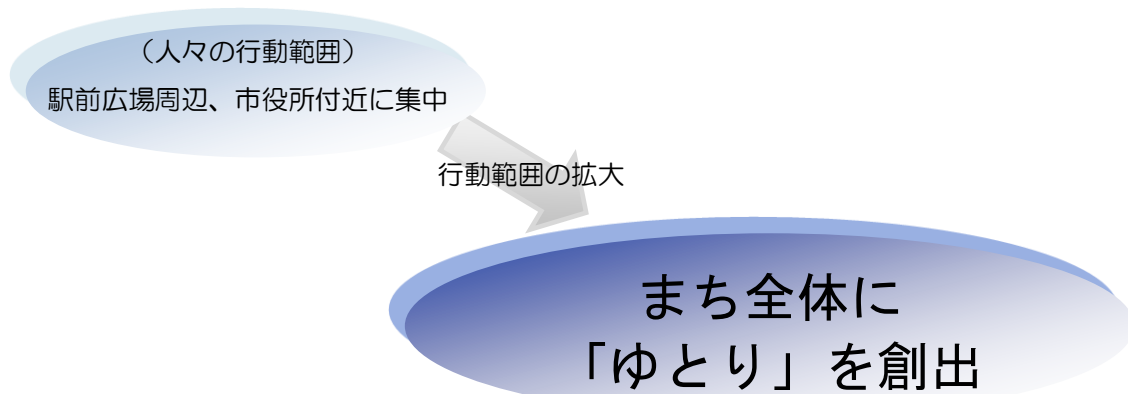
## 第3章：将来像

ここでは、前章において取りまとめた現状と課題を踏まえ、現在の人々の行動範囲を広げることにより、地域内のゆとりや賑わいを創出し、人が主役のまちづくりに取り組む将来像を示します。

### (1) 将来像の考え方

これからのまちづくりは、単に課題対応型でまちを変えていくだけではなく、社会環境の変化や多様化する市民ニーズにも対応していかなければいけません。

なかでも、車社会からの転換や少子高齢化等、これからの時代の変化を見据え、人を中心としたまちづくりをめざし、商業、業務、行政機能等が集積している駅前広場周辺や市役所付近に集中している現在の人々の行動範囲を広げることによって、まち全体に「ゆとり」を創出することが重要と考えます。



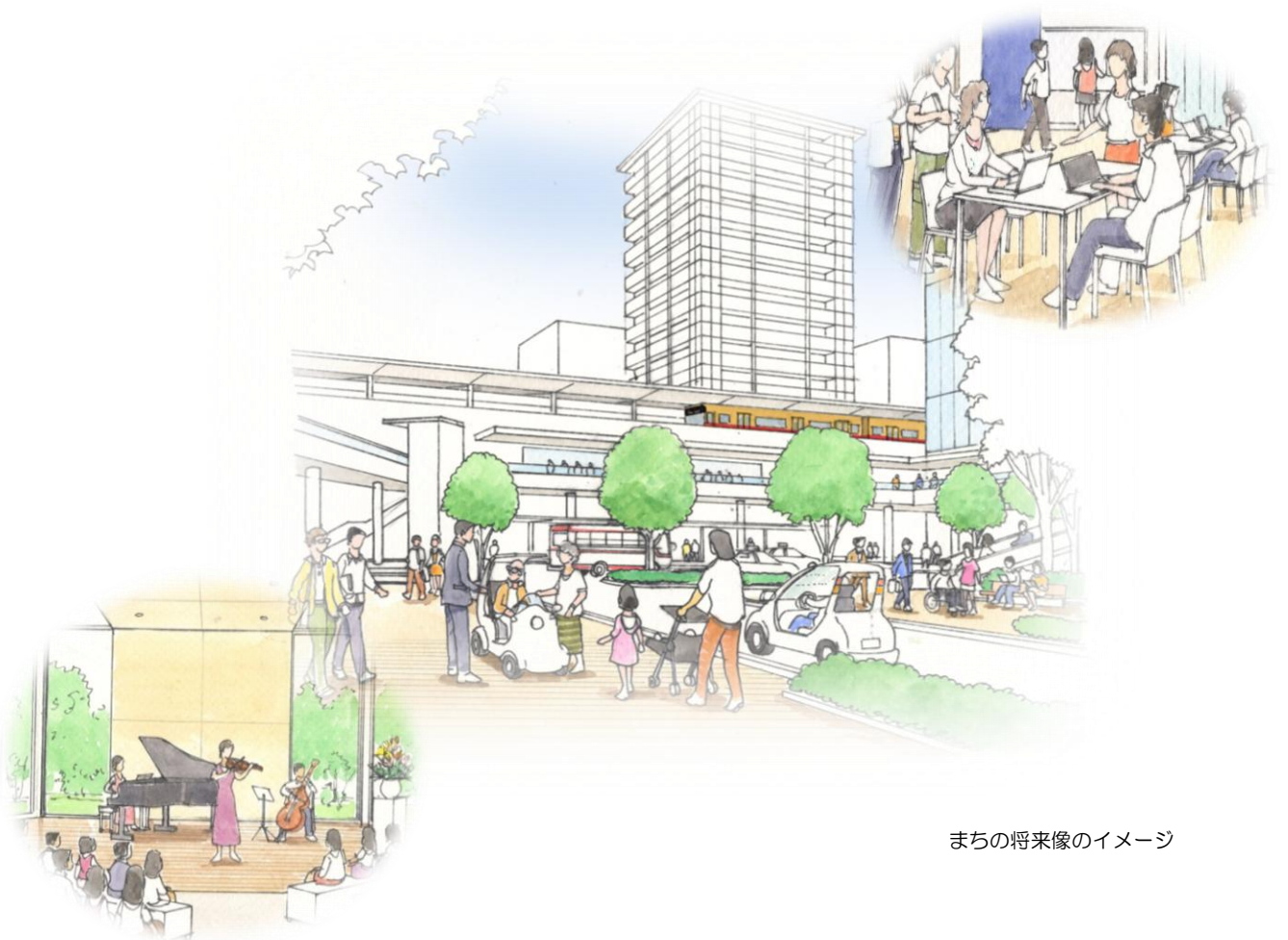
## (2) まちの将来像 ～基本コンセプト～

# ～再発進 ひらかた 人が主役のゆとりと賑わいのまちへ～

将来像の考え方から、まち全体にゆとりを創出することによって、まちの回遊性を向上させるとともに、枚方市駅周辺地域が、地域住民、学生、就業者、来街者といった多様な人々の活動をサポートする場となり、賑わいのあるまちの形成が図られます。

また、安全で安心なまち、環境や景観に配慮したまち、少子高齢化社会等に対応したまちの形成をめざすとともに、歴史、文化や市民活動等の地域資源を活かした枚方らしさを創出することによって、まちの魅力を高め、それらの情報を積極的に発信していくことをめざします。

周辺都市も含めた広域都市圏の拠点にふさわしいまちの実力と品格を示していくために、情報を発信し、外に広がり前に進む（≒発進）ことをめざす再整備に取り組んでいきます。



まちの将来像のイメージ

## 第4章：まちづくりの方向性

前章のまちの将来像をうけ、まち全体にゆとりをもたせることで、地域内の活性化につながる回遊性を向上させるなど、賑わいを創出し、人が主役のまちづくりを促進するための施策として、以下のとおり方向性を定めます。

### (1) 広域的な拠点としての機能の更新・充実

北河内地区における広域的な拠点として、行政施設等を更新するとともに生活の豊かさを支援する機能といった新たな機能の導入・充実を図り、まち全体のリニューアルを促進します。

新町2丁目地区においては、新たな都市機能の導入により、既存の都市機能と複合・融合させ、広域的な交流拠点としての充実を図ります。

低未利用地等の有効活用により居住機能を確保するとともに、市民生活に必要な商業施設等、賑わいを創出する都市機能の充実を図ります。



## (2) 社会環境や市民ニーズに対応した多様な都市機能の集積・強化

社会環境の変化や多様化する市民ニーズに対応するため、生活の豊かさや暮らしの質の向上に寄与する多様な都市機能の集積・強化及び、総合的な経済活力の向上を図ります。

その実現には、まち全体で建物の連鎖的な更新により、都市居住への立地を促進するとともに、未来を見据えた低炭素まちづくりを進め、緑化推進等の景観に配慮した快適な都市空間の整備に取り組みます。

また、まち全体を界限性\*のあるモールにとらえ、店舗・レストラン・宿泊施設等により活性化や賑わいの連続性を創出し、ゆとりの空間の導入とあわせて回遊性の向上を図ります。

建物の更新やゆとりの空間、外周道路の整備等により災害に強いまちの形成を促進します。



住・商調和のイメージ

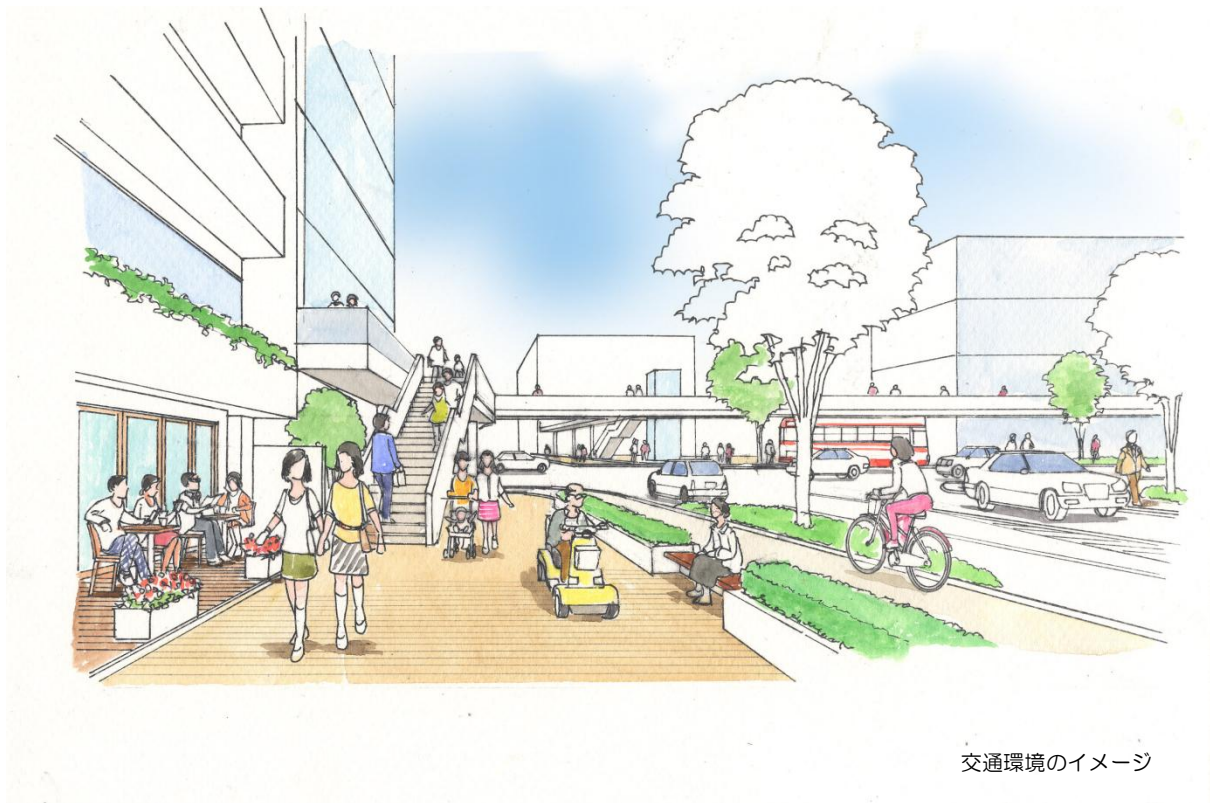


### (3) 人々の活動や交流を促進する交通基盤のネットワーク展開

枚方市駅周辺地域での回遊性の向上や人々の交流に寄与するため、景観に配慮した環境空間の整備を行い、誰もが安心して利用できるまちを創出します。

外周道路網を形成することで地域周辺の交通環境の向上を図り、地域内への車両の進入を抑制します。

時代の変化に対応した駅前広場機能の強化を進め、交通結節点として乗り換え利便性の向上を図るとともに、駅前広場における通過車両の抑制等により交通動線の円滑化を図ります。



交通環境のイメージ

#### (4) 地域資源と文化芸術活動を活かした枚方らしさの創出

枚方市駅周辺地域の地域資源である枚方宿や淀川等をまちの魅力づくりに活かします。

また、枚方市内 6 大学の学生の日常的な交流、活動等、学生のまち枚方として若者が集うまちづくりを推進します。

さらに、文化芸術の拠点となる総合文化施設を整備することで、本市の特色である市民の文化芸術活動をより活発化させます。

これらにより枚方らしさを創出し、あわせて情報発信することで都市の魅力を高めます。



文化芸術活動のイメージ



地域資源のイメージ

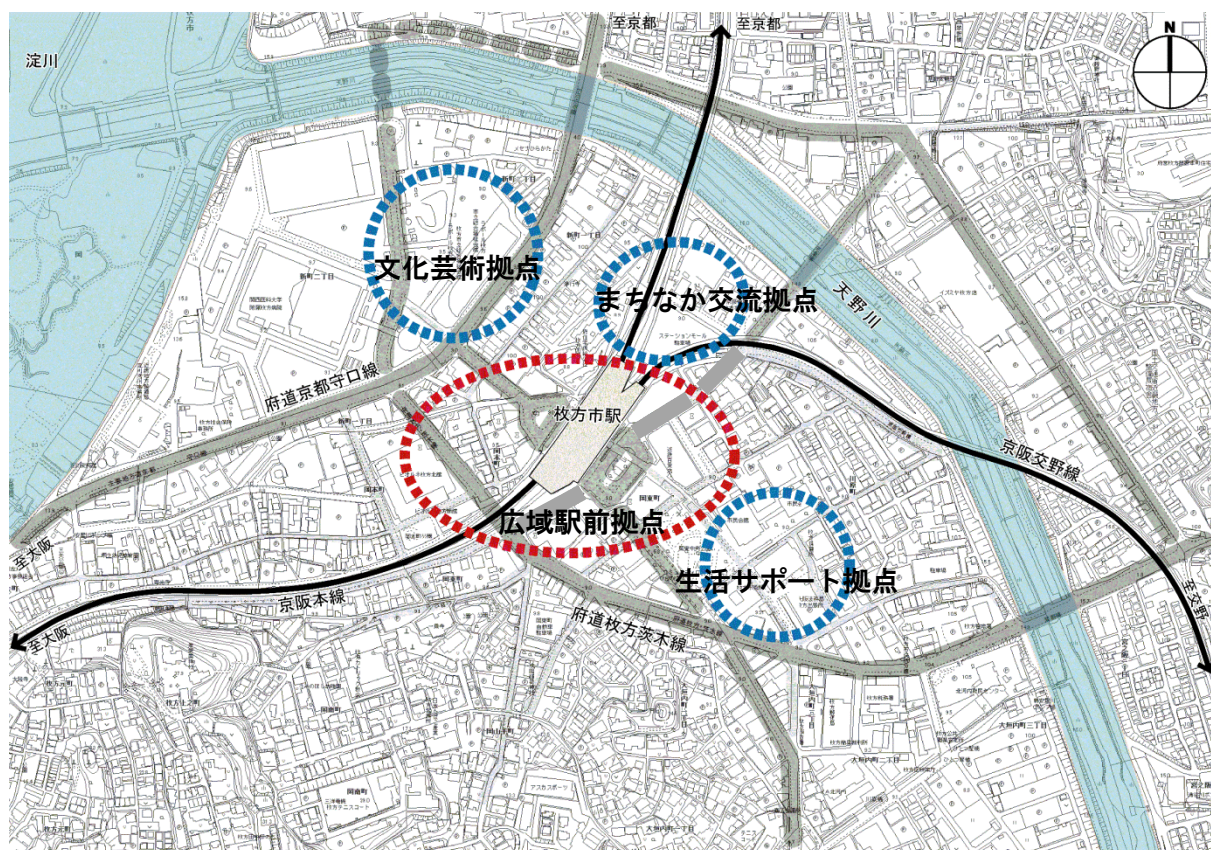
## 第5章：まちづくりの取り組み

ここでは、まちづくりの方向性をもとにまちの将来像を実現させるための取り組みについて示します。

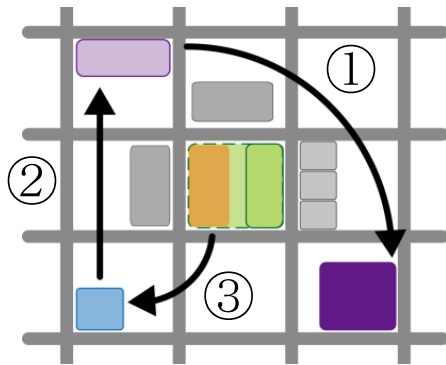
### (1) 拠点形成と連鎖型によるまちづくり

枚方市駅周辺地域は、駅前広場を中心に商業、業務、居住、行政施設が比較的狭い範囲で集積された、機能重視の既存の拠点が形成されています。ビジョンでは、既存の拠点『広域駅前拠点』をより一層強化するとともに、新たに3つの拠点『文化芸術拠点』『まちなか交流拠点』『生活サポート拠点』を形成することにより、まち全体にゆとりをもたせ、回遊性を向上させることで、賑わいにつなげます。

まちづくりの具体的な手法としては、新町2丁目地区の総合文化施設の整備を契機に、老朽化施設の建替えや移転を連鎖的に行うことでまち全体の活動を止めることなく、これからの時代に対応したまちの形成をめざします。



## 連鎖型まちづくりのイメージ



- ・①、②、③のように、順々に建替えや移転を連鎖的に行っていく。
- ・連鎖的に建物の更新を行っていくことで、まち全体の更新、土地利用の転換を図っていく。
- ・通常の移転で生じる仮移転先の選定や既存土地・建物の処理の負担が減る。

### 1) 広域駅前拠点の強化

これまで、北河内地区の広域的な交流拠点として形成されてきたエリアについて、駅前広場をはじめとする都市施設の改善や情報システムの充実を図るとともに、老朽化した既存建物の再開発も含めた民間活力によるリニューアル等、商業をはじめとする様々な都市機能の更新とまちの活性化を促進します。

### 2) 文化芸術拠点の形成

新町2丁目地区における既存の都市機能や民間活力の導入を視野に入れた新しい都市機能と連携することなどにより、総合文化施設を中心とした文化芸術の拠点を形成することで広域的な交流拠点としての充実を図り、枚方市駅周辺地域全体の魅力の向上や活性化を促進します。

### 3) まちなか交流拠点の形成

多様な人々が交流し、市民生活に必要な都市機能を備えた拠点として、民間活力による居住、商業、業務機能の複合的な土地利用を促進することにより、低未利用地等の有効活用を図ります。

また、大阪府住宅供給公社枚方団地エリアの再生については、交通環境の改善や、高齢者の都市居住も含めた地域内人口増加への働きかけを行います。

あわせて、隣接する天野川の自然環境を活かし、川と一体となった広場等、歩行者の回遊性を高める空間整備に向け関係機関等へ働きかけます。

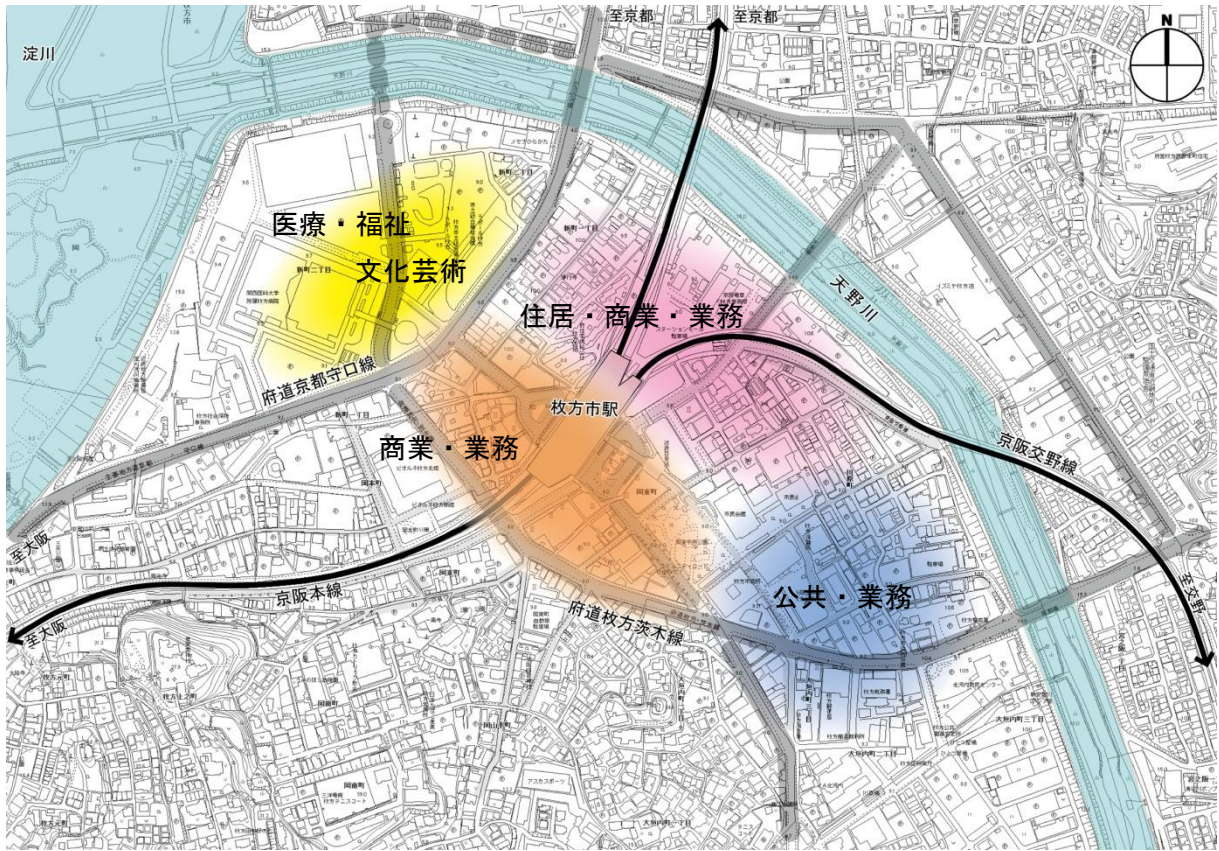
### 4) 生活サポート拠点の形成

広域的な行政サービスの提供や市民生活のサポートを行う拠点として、民間活力の導入による居住、商業、業務機能等の複合的な土地利用を視野に入れ、市役所をはじめとする行政機能を高めることで市民生活の利便性を図ります。

また、現市民会館跡地の土地利用を図るとともに市役所庁舎の建替えの際には、現市役所用地も有効活用することにより、市民生活の利便性の向上と周辺の公園、道路と一体となった新しい賑わい空間を創出し、まち全体のリニューアルを促進します。

## (2) ゾーニングの設定

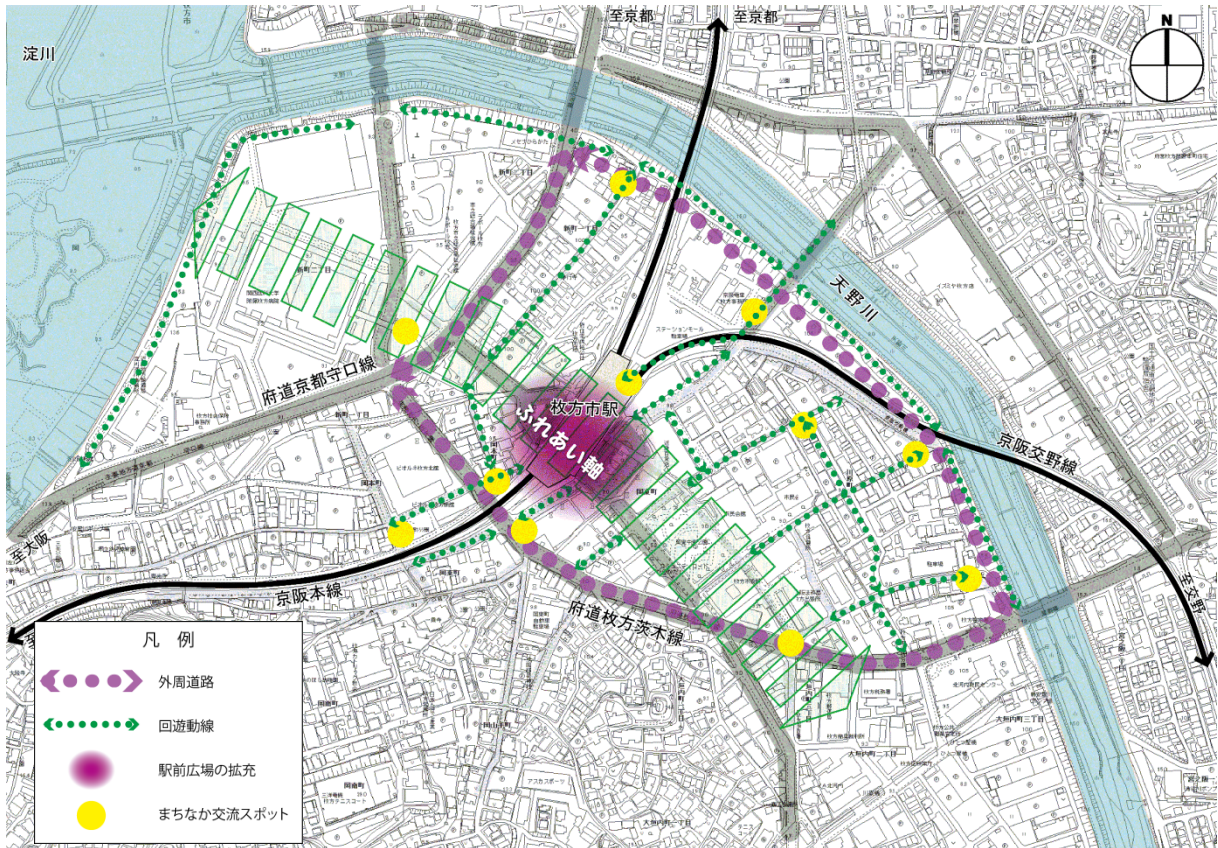
拠点形成と連鎖的なまちづくりの実現に向け、設定したゾーニングを示します。



### (3) 交通環境の改善

まちの活性化や賑わいの創出には、まちへのアクセスや地域内での移動を円滑にする必要があります。その実現には、交通環境の改善を図り、人が活動でき、人で賑わうまちをめざします。

#### 交通環境改善のイメージ



#### 1) 駅前広場の整備

駅前広場の拡充や環境空間の確保等、交通結節点機能の充実を図ります。

また、南北の駅前広場機能の分離等利用形態を検討し、通過車両や駅周辺地域への車両の進入を抑制するなど利用者の利便性の向上と交通動線の円滑化を図ります。

#### 2) 歩行者・自転車動線の整備

枚方市駅周辺地域への車両の進入を抑制し、誰もがスムーズに移動ができ、安心してまちなかを行き来できるよう、歩行者空間の整備を図ります。

また、自転車については、歩行者動線や駐輪場と整合した動線を検討するなど、安全・安心な交通環境の形成に向けた取り組みを進めます。

### 3) 外周道路の整備

外周道路を天野川の左岸沿いに新規に設定し、外周道路沿いの駐車場を有効活用することで、枚方市駅周辺地域への車両の進入を抑制します。

### 4) アクセス道路の整備

府道京都守口線や他のアクセス道路の渋滞が、路線バス発着の遅延や地域へのアクセス障害となっていることから、ビジョン対象区域外もあわせて交通体系の検証を行うとともに、課題解決のため国や大阪府等、関係機関に対し広域道路網の整備について改善に向けた取り組みを働きかけます。

### 5) 情報発信の強化による交通円滑化

まちを訪れる人が目的の施設やその場所、そこにたどり着くまでの最適な経路や交通手段は何を使えばよいかなど、わかりやすさや利便性向上のため、バス運行情報システムの導入や情報案内等による情報発信の強化を図ります。

## (4) 快適な空間の創出と環境負荷の軽減

快適な空間を創出することで、まちに集う人の心にゆとりが芽生えるとともに、品格を備えた本市の中心市街地に相応しい景観に配慮した緑豊かなまちへと導きます。また、未来を見据えた低炭素まちづくりを推進していくため、ヒートアイランド<sup>※</sup>対策やエネルギー利用の効率化による環境側面からの取り組みを進めます。

### 1) 広場等のオープンスペースの整備

市役所周辺から枚方市駅を通り関西医科大学附属枚方病院や淀川に至る南北軸を快適で安全な歩行者の『ふれあい軸』として、形成します。

また、まちなか交流スポットを点在させることにより、歩行者の回遊動線を形成します。

### 2) 緑の空間の整備

駅前広場の拡充においては景観形成とあわせた緑化の促進を行うことでゆとりある空間を創出します。また、『枚方市緑の基本計画<sup>※</sup>』を踏まえ、まちのリニューアルにあわせ既存の緑空間の拡充と地域の緑化の促進を図り、緑豊かな安らぎの空間を整備します。

このような取り組みから、まち全体のうらおい空間としての緑の環境空間が整い、まちなかの景観や環境の質の向上とヒートアイランド対策等の環境負荷軽減が図られることが期待できます。

### 3) エネルギー利用の効率化

まちのリニューアルにあわせ、太陽光発電などの再生可能エネルギー<sup>※</sup>の導入や、下水処理水の温度差を利用する未利用エネルギー<sup>※</sup>の活用を促進します。また、昼夜間エネルギーの需要格差の平準化等、エネルギー利用の効率化を図ることによって二酸化炭素排出量を削減し、環境負荷の軽減に努めます。



## (5) 安全・安心への導き

『枚方市地域防災計画※』を基本に、広域的な拠点としての枚方市駅周辺地域に即した取り組みを推進し、安全・安心のまちづくりへと導きます。

### 1) 防災

広域的な拠点としての機能を災害時においても最大限発揮できるように、まちのリニューアルにあわせ、建物の配置や防災空間の確保等、災害に強いまちを形成するとともに、住民や事業者等が自ら災害対応を行う、自助を啓発します。

外周道路については、地域緊急交通路府道枚方茨木線と連携し、災害時における避難路及び緊急車両通行路の複線化にも寄与します。

また、市役所庁舎の建替えの際には、災害対策本部としての機能の向上を図ります。

近年の都市型水害では、計画雨量を上回る集中豪雨による浸水被害が発生し、雨水整備だけでは対応しきれない状況となっています。今後は、浸水被害の軽減に向け、自助・共助・公助の観点から、それぞれが連携した取り組みを推進します。



防災訓練

### 2) 防犯

地域住民や来街者が日常利用する空間における防犯対策が重要であることから、行政、防犯協議会、ボランティア組織、地域住民等が問題意識を共有し、防犯活動に参加できるシステムの構築を促進します。

また、まちなか交流拠点等への都市居住を促進し、夜間人口を増やすことで防犯レベルの向上をめざします。

## (6) 地域資源や地域活動の活用

魅力ある地域資源を積極的に保全・活用し、枚方らしさを創出します。

また、地域が一体となった様々な活動が継続的かつ活発に行える環境を整備し、まちの賑わいを創出します。

### 1) 学生の交流の場づくり

枚方市では市内に立地する大学との連携協定※の締結や魅力ある事業の取り組みにおいて、この地域を利用する様々な大学の多くの学生が交流できるような場づくりをめざします。

### 2) イベント活動の場の整備

枚方市駅周辺地域では、「街バル※」や「街コン※」等の地域の商業店舗をめぐるイベントが、地元商業者が中心となって行われています。

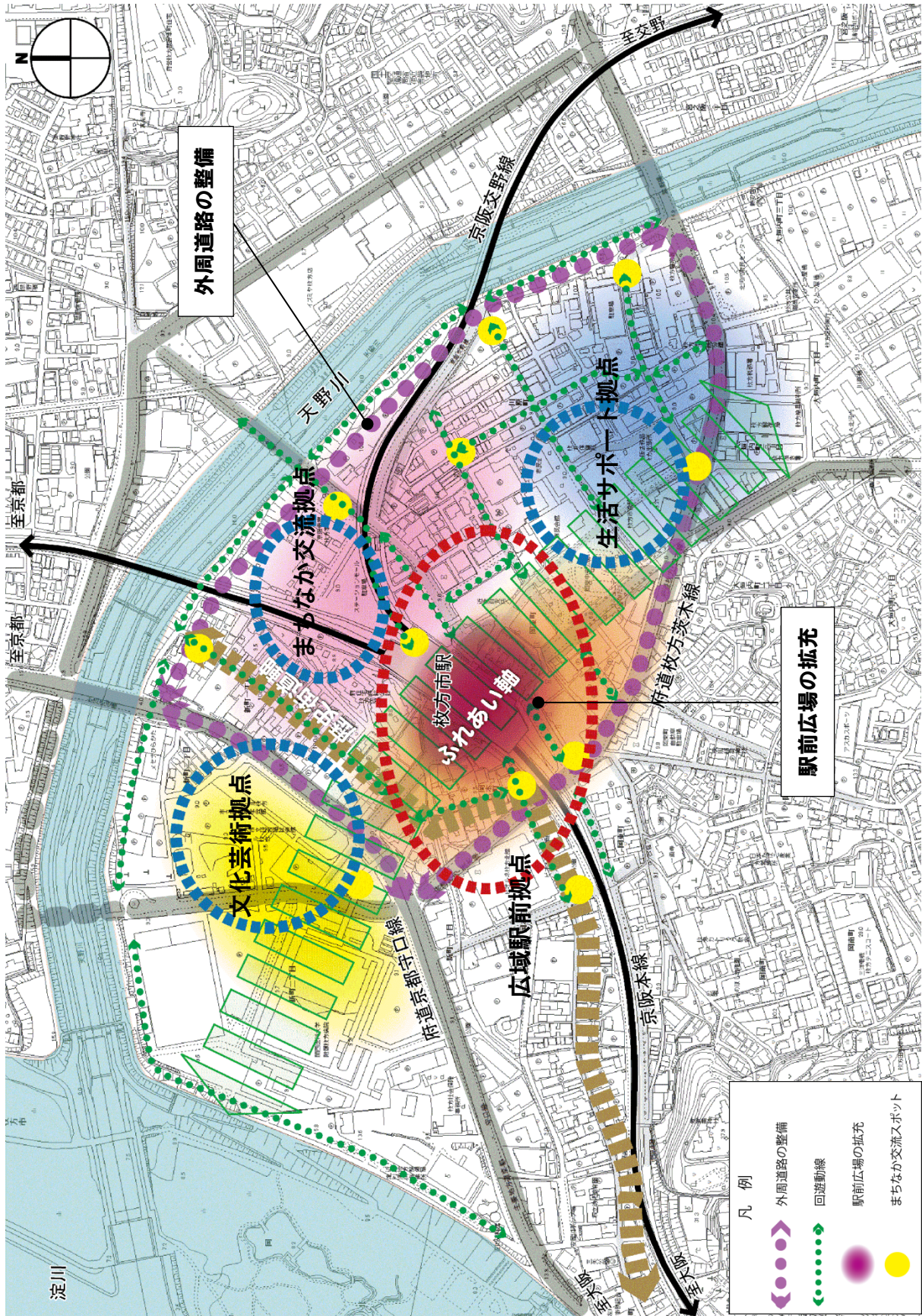
それらの活動を快適かつ安全に行えるよう、回遊空間を整備し、まちの賑わいや商業の活性化に寄与する活動をサポートします。

### 3) まちの情報発信の促進

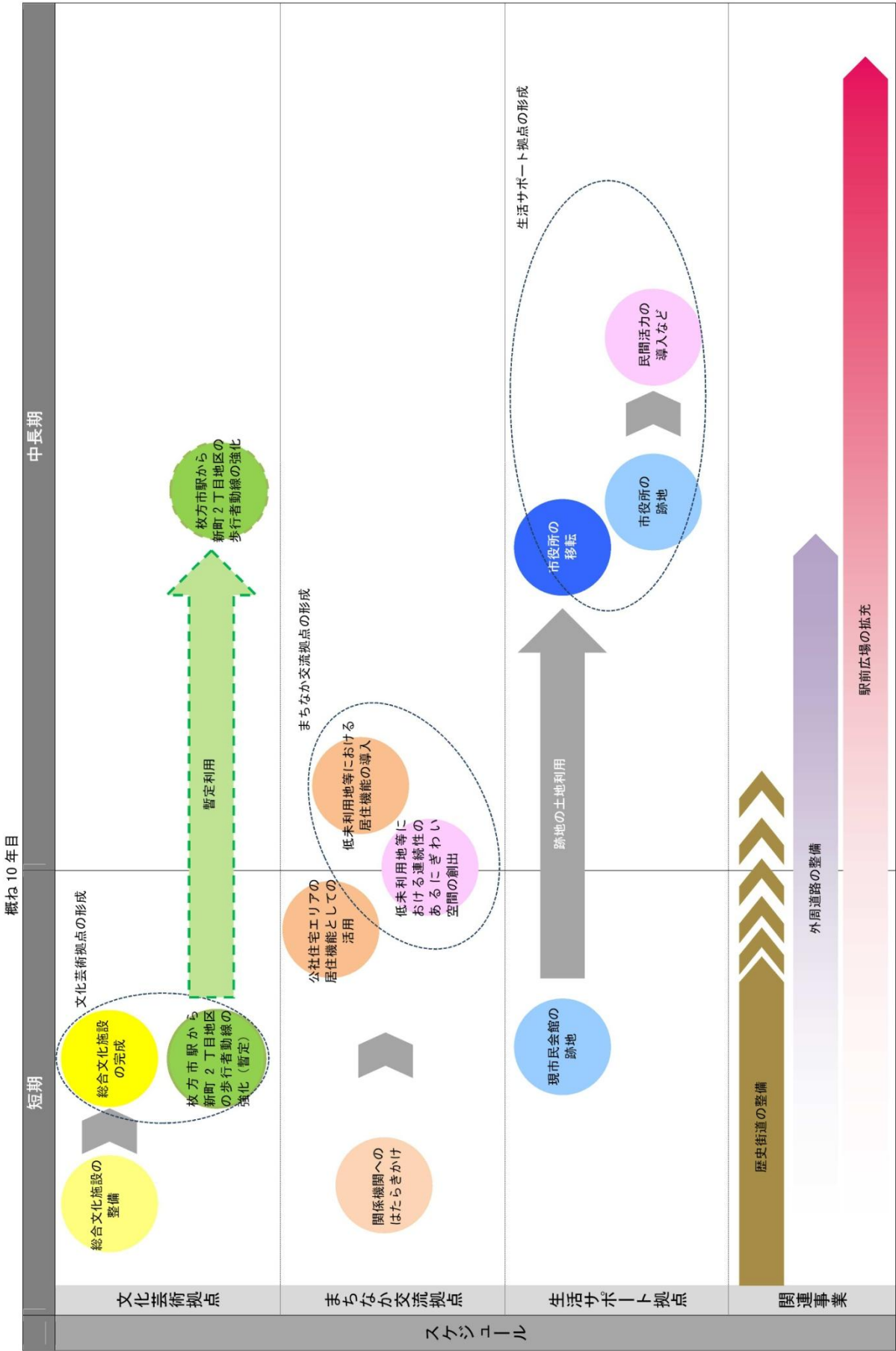
イベントや地域活動から飲食、買い物等の身近な生活情報や百済寺、淀川等の地域資源に至るまで、様々な情報を発信し、まちの魅力を積極的にPRします。

それらの情報に、より多くの人があらゆる場所で接することができるよう、情報の発信や案内サービスを充実させ、まちと人、人と人をつなぐコミュニケーションの活性化を図ります。

(7) ビジョンのイメージ



# (8) 主な取り組みスケジュール



## 第6章：ビジョンの推進

ビジョンに基づくまちづくりを着実に実現させるためには、本市の推進体制の充実だけでなく国、大阪府等の関係機関との連携を図り進めていく必要があります。より発展的なビジョンの実現には、行政の取り組みだけではなく市民や事業者、各種団体が相互に協力する協働体制を構築する必要があります。ここでは、ビジョン実現に向けた取り組みについて示します。

### (1) ビジョン実現に向けた第一歩

枚方市駅周辺地域の再整備については、駅前広場の拡充、外周道路の整備等交通環境の改善が必要であることなど、行政主導で関与する事柄が比較的大きく占めています。とりわけ新町2丁目地区での市民会館大ホールの建替えを含んだ総合文化施設の整備を契機にその建替えに伴う現市民会館跡地の土地利用を図ることや市役所庁舎の建替えが控えていることなど、再整備に向けて大きく動きはじめようとしています。

このような状況で、ビジョンを実現していくためには地元等と連携を図りながらその取り組みを進めなければなりません。そのためにまず、ビジョンの内容の周知と理解を促していくための取り組みを行います。

### (2) ビジョン実現に向けたさらなる展開

先に述べた行政主導で行われる再整備に続くステップとして、ビジョン実現に向けたさらなる展開を促進しなければなりません。それには民間活力や地域のルール等に基づき実現されていくものも多く、関連する区域の地権者等との調整や住民等の自主的な合意形成が必要となります。

それにはまず、地域の人たちがビジョンに示すまちの将来像やまちづくりの方向性を共有し、より地域に密接した取り組みとして行っていく必要があります。そこで、住民や事業者等の地域の人たちが主体となって、より具体的で積極的なまちづくりを進められるような組織づくりを行政がサポートし、その組織が『地域による自主的な、まちづくりの管理運営の取り組み』を行っていくことでより発展的なビジョンの実現をめざします。